

思おとしたりければ、ねたがりて陰陽師をかたらひて、まきをふせたりけるなり、さてその少將は死なんとしけるを、晴明が見つけて、夜一よいのりたりければ、そのふせける陰陽師のもとより人の來て、たかやかに、心のまどひけるまゝに、よしなくまもりつよかりける人の御ために、仰をそむかじとて、まきをふせて、すでにまき神かへりて、をのれたゞいままきにうて、死侍ぬすまじかりける事をしてといひけるを、晴明、これきかしたまへ、夜部みつけまいらせざらましかば、かやうにこそ候はましといひて、その使に人をそへてやりてき、ければ、陰陽師はやがて死にけりとぞいひける、まきふせさせける聲をば、まうとやがてをひすてけるとぞよろこびける、たれとはおぼえず、大納言までなり給けるとぞ。

〔今昔物語 二十四〕播磨國陰陽師智德法師語第十九

今昔、播磨國□□ノ郡ニ、陰陽師ヲ爲ル法師有ケリ、名ヲバ智德ト云ケリ、年來其ノ國ニ住テ、此道ヲシテ有ケルニ、其ノ法師ハ、糸只者ニモ非ヌ奴也ケリ、○中此偏ニ智德ガ陰陽ノ術ヲ以テ、海賊ヲ謀リ寄セタルナリ、而レバ智德極テ怖シキ奴ニテ有ケルニ、晴明ニ會テゾ識神ヲ被隱タリケル、然レドモ其ハ其法ヲ不知バ不弊、此ル者播磨國ニ有ケリトナム語リ傳ヘタルトヤ、

〔源平盛衰記 十〕中宮御產事

治承二年十一月十二日寅時ヨリ、中宮<sup>○平</sup>御產ノ氣御座スト旬ケリ、去月廿七日ヨリ、時々其御氣御座ケレ共、取立タル御事ハナカリツルニ、今ハ隙ナク取頻ラセ給ヘドモ、御座ナラズ、二位殿心苦ク思給テ、一條堀川戻橋ニテ、橋ヨリ東ノ爪ニ車ヲ立サセ給テ、橋占ヲゾ問給フ、○中一條戻橋ト云ハ、昔安部晴明ガ天文ノ淵源ヲ極テ十二神將ヲ仕ニケルガ、其妻職神ノ貌ニ畏ケレバ、彼十二神ヲ橋ノ下ニ呪シ置テ、用事ノ時ハ召仕ケリ、

○